

令和 5 年度（2023 年度）

学校関係者評価 報告書

学校法人巨樹の会
下関看護リハビリテーション学校

本報告書は、学校法人巨樹の会 下関看護リハビリテーション学校の職業実践専門課程認定に関わる学校関係者評価委員会の評価結果を記したものである。

令和 6 年 7 月 1 日

学校長 林 研二

学校評価実施責任者

理学療法学科 副学校長兼事務長代行 山崎 圭

看護学科 副学校長代行 田中 亜紀子

<目次>

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

- 1) 学校関係者評価の目的、方針
- 2) 学校関係者評価委員
- 3) 学校関係者評価委員会の開催
- 4) 学校関係者評価の実施

2. 学校関係者評価の内容

- 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
- 項目Ⅱ 学校運営
- 項目Ⅲ 教育活動
- 項目Ⅳ 学修成果
- 項目Ⅴ 学生支援
- 項目Ⅵ 教育環境
- 項目Ⅶ 学生の募集活動、広報活動
- 項目Ⅷ 財務
- 項目Ⅷ 法令等の遵守
- 項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

1) 学校関係者評価の目的、方針

- ① 関係業界・職能団体、高等学校、卒業生、学生保護者、地域住民などの学校関係者が、本校の自己評価の結果を評価することで、その妥当性を確認し、客観性・透明性を高めることを目的とする。
- ② 学校関係者評価により、本校の学校運営・教育活動における課題を明確にし、その意見を参考に学校運営の改善を図る。
- ③ 学校関係者評価は、本校の自己評価を基に、「専修学校における学校評価ガイドライン」、および本校の学校評価実施規程に則り実施する。

2) 学校関係者評価委員

業界関係者	： 山口県理学療法士会 副会長 安岡病院 看護部長	綿谷 昌明 古本 たつ子
卒業生	： 下関病院 看護師 下関市立市民病院 理学療法士	八木 航亮 宇都宮功一
地域住民	： 下関市市議員 彦島自治連合会 会長	林 真一郎 二見 勝敬
高校等評価委員	： 下関国際高等学校 学校長	上田 晃久

※敬称略、順不同

3) 学校関係者評価委員会の開催

日 時：令和6年3月19日(金) 14:00～16:00
場 所：下関看護リハビリテーション学校 会議室

4) 学校関係者評価方法

令和5年度の自己評価に基づき、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- ① 自己評価の結果および内容が適切かどうか

- ② 課題やその解決への方向性が適切かどうか
- ③ 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- ④ 学校の運営に関する助言

2. 学校関係者評価の内容

学校関係者評価、自己評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評定基準にて実施した。

【評定基準】

- S：十分に達成している。（達成度が高い）
A：達成している。（概ね達成しており、明らかな改善は要しない）
B：達成がやや不十分である。（若干の改善を要する）
C：達成が不十分である。（不適合がある、明らかに改善を要する）

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

教育理念・目的・目標等については、学内掲示・学生便覧・パンフレット・HP等で広く公表することで周知を図っている。教育理念に基づいて学年毎の到達目標を作成し、学生に提示し、学生も1年間のクラス目標・スローガンを立て、それを基に個人の目標を立てて勉学に励んでいる。年度初めに講師会議を行い、また毎月の実習指導者会議において意見交換を行っている。現在実施している周知の方策を継続し、理解を促していく。

課題

特になし

改善の方策

今後も継続する。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし。

小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

総括に記載のとおりである。

小項目Ⅰ-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界（高校、病院、実習施設など）に周知されているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

総括に記載のとおり、便覧やHPなどで、周知されている。

小項目Ⅰ-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

【理学療法学科】

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

本法人および本校の教育目標、人材育成像は、日本理学療法士協会の教育ガイドラインに記載されている到達目標に沿って設定されている。また、教育課程編成委員会ならびに実習指導者会議等を通じて、業界ニーズを教育に取り入れている。

学科の教育目標、人材育成像については学生便覧に掲載し、学生への周知を行っている。また、デュプロマポリシーをホームページにて公表している。

【看護学科】

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

教育目的・教育目標、学年ごとの達成目標を学生便覧に明記し、学生及び教職員にも周知している。新カリキュラムによる教育を今年度から実施している。看護の対象者について地域のリサーチで地域の人と触れ合うことで、「地域の生活者」という視点を育むことができた。また多職種についてもカリキュラムに反映し学習することで、より地域包括ケアシステムでも活躍できる人材育成にも役立っている。

項目Ⅱ 学校運営

総括

年度ごとに学校法人巨樹の会の方針が出され、それに基づき学校の教育方針、重点目標を設定している。年度初めに学科の管理目標を提示し、各学年にて運営と教員の個人目標を設定し、年度末に評価を行っている。

学校運営会議・管理会議が意思決定の場として十分に機能し、教員会議で報告検討することで、教職員の意思統一が図れている。

情報システムについては、学事サーバーにて情報管理を行い業務の効率化を図っている。職員間の情報交換に関しては、グーグルドライブを用い活用している。

セキュリティの向上を図るために、学生にはSNS使用時の研修を入学時に組み入れた。タブレットを使用するようになり6年目となり、リモート授業やシミュレーション教育、リモート会議等で活用できている。台風や大雨、感染症による自宅療養中の場合も自宅で学事を止めることなく授業を受けることができている。また双方向授業支援クラウドツールを用いて学生と連絡を図っている。今年度は保護者にもアプリを活用し連絡を取れるようにした。会議もペーパーレスで資料配信や情報共有ができている。

課題

情報セキュリティについては、教員も含めて今後も継続して強化を図っていく必要がある。

改善の方策

情報セキュリティや個人情報保護について研修会等を実施していく。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし。

小項目 II-1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

総括に記載のとおり、策定されている。

小項目 II-2

運営組織や意思決定機能は、規則などにおいて明確化されているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

運営方針・計画は学科会議にて全員に意思統一を図り、学科会議で提案されたことは、最終的に管理会議、学校運営会議で決定されている。

小項目 II-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

学事サーバーやファイルサーバーの設置、ICT教育の推進により、効率化を図っている。

関連学校の会議はリモートでの会議を用いるなど、効率化を図っている。

Google driveへ会議資料等をアップすることにより同時入力が可能となったことで、効率化につながっている。また、会議おけるペーパーレス化が進んだ。

職員の勤怠管理についてもシステムを用いて、適切になされている。

項目Ⅲ 教育活動**総括**

学校法人の教育理念のもと、指定規則に従い、教育課程編成を考え、学年別の到達目標を挙げている。学生の理解や意欲の状況を見ながら学習の支援を行っている。理学療法学科は新しい指定規則のもとで、理学療法士協会のモデルコアカリキュラムに準拠してカリキュラムを作成している。看護学科は令和4年度から新カリキュラムへと改定され、教員各自が授業計画を立案し、学科会議の中で検討することを継続している。授業評価は各科目の終了時に受け、データが即グラフ化され、タイムリーに分析、表示できている。教員は評価を分析し次の講義に活かしている。キャリア教育に関しては、1年次より段階的にスキルアップできるように、教科外活動を含め、カリキュラムに組んでいる。専門職連携教育(以下 IPE と記す)を3年前から実施し、効果を上げている。看護学科の新カリキュラムでは IPE は必須であり、理学療法学科と協働し、今後も勧めていく。

課題

研究や発表などを進めている職員が少ない。

改善の方策

職員の意識を高め、必要な時間や機器などを確保していく。

学校関係者評価委員会からの意見

新卒者の職能団体へに入会率が全国的に低下しているため、是非とも学内において、学生へその重要性や必要性について周知して欲しい。

小項目 III-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

【理学療法学科】

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

教育課程の編成方針、実施方針に関しては教育理念のもと、指定規則に従い、グループのカリキュラム委員会運営委員会で決められている。

【看護学科】

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

新カリキュラムの運営が始まり、授業評価から運営の見直しも検討している。

教育課程の方針や必要な資料は提示している。

組織図や組織運営の規定は整備されている。

本法人の看護学科4校の運営会議にて、新カリキュラム運営の実際を紹介しあい、効果的な運営を考えた。

小項目 Ⅲ-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

看護学科とともに専門職連携教育(IPE)に取り組んでいる。各学年で後期に実施し、多職種の役割について学ぶことができた。各学年でテーマを決め、他職種の仕事の理解、患者介入、カンファレンスなどを実施。実習や卒後に向けた学習に役立っていると考えられる。

理学療法技術の習得のために、タブレット端末を用い実技指導や実技試験時のフィードバックや復習などに活用を行っている。

1年次、2年次にはOSCE(Objective Structured Clinical Examination 客観的臨床能力試験)を実施し、学生の能力、課題を把握するようにしている。

効果的な実習を行うために、実習指導者と連携し実習指導を行っている。また、指導者には卒業生も多数含まれている。

ICT教育については、教育用アプリの活用、動画による実技テストの振り返り、小テストやアンケート実施などに加えて、電子教科書を積極的に取り入れることで、授業中だけではなく自己学習の際にも検索機能などを使用するなど、タブレット活用による教育が広がってきている。また、悪天候による交通機関の乱れが生じた際などの遠隔授業の実施にもタブレットを活用している。タブレットの使用方法は限定的であり、もっと幅広く使えるように情報収集が必要である。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

ICTを使った実習補完教材の活用を行っている。まだコロナで臨地実習ができない場合があり、学内実習にて臨地での学びが得られるように工夫した。

演習ではタブレットを用いて、技術実践の状況を映し出し、クラス全員が同じ内容を確認でき、

意見交換できている。また、自分の技術の状況を撮ってもらい振り返りに活用している。

新カリキュラムでは授業科目として必須となった専門職連携教育も過去の経験を活かし、理学療法学科と共に学習している。学修したことが実践で生かされているのか、今後実習でのカンファレンス参加で意見交換できるように指導する。

小項目 Ⅲ-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

学生に授業評価アンケートを実施している。

専任教員においては、教員間での授業評価も実施し、フィードバックも行っている。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

終講試験終了時と実習最終日に学生はアプリを用いて、授業評価している。その結果は掲示し周知している。教員は内容を共有して授業改善に活用している。

技術演習やシミュレーションには教員が参加し、学生に学習状況から方法や評価の仕方など意見交換し、次に活用している。

小項目 Ⅲ-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

1年次より国家試験対策を実施。3年次には、セミナーや個別指導も実施。卒業生(不合格者)へも対応を行っている。

3年生の国家試験対策では自己学習、学生同士の少人数での口頭試問、セミナー、模擬試験を連動させた計画を遂行した。また、成績不良者については早期より教員による少人数指導、口頭試問など実施してきた。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

各学年で国家試験対策を実施し、資格取得に向けて教科外活動の研修内容など工夫している。各担当が中心となり、創意工夫し学科会議で検討している。自ら学習する力をどのようにつけるか、検討していく。

模擬試験の結果を可視化し、共有しながら適宜方法の修正を重ね、フォローしている。1・3年生には各教員がチューターとしてフォローしている。

既卒生のフォローも行っているが、時期を決め連絡するが受験票提出などの必要時にしか登校せず、次年度合格になかなか結びつかない。不合格判明時に年間計画の文書をもって説明する。

小項目 III-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

学会、研修会への参加を奨励している。

今年度は新型コロナウイルスの影響も緩和され、リモートによる研修会・対面での研修会に、ほとんどの教員が参加した。また、法人(関連校合同)では教育に関する研修会が3回開催され、全教員が参加した。

研究を奨励しており、1名の教員が論文投稿を行った。しかしながら、一部の教員に限られているため、積極的な取組みを促す必要がある。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

希望した研修に参加している。ハイブリッドでの学会も増え、各自、自己研鑽に努めている。

本法人の研修は年2回実施したが、全員が参加している。コロナの影響も緩和され、リモートと対面両方が選択できるハイブリッド開催の学会や研修会も増え、積極的参加しながら自己研鑽に努めている。

項目IV 学修成果

総括

就職に関しては、開校以来100%を達成している。

国家試験結果に関しても教員全員で100%合格に向け、1年次より取り組んでいる。しかし、入学生については十分に選定できる状況ではなく、学習習慣のついていない学生が多くみられ、成績不良者に早期から関わることや、保護者面談等を通じて学生の生活習慣から関わる等の対策を行っている。

退学率の低減のため、様々な取り組みを行った。改善傾向ではあるが、十分な結果であるとは言えない。

スクールカウンセラーが定期的に来校し、活用している。

課題

様々な対策を講じているにも関わらず退学者や留年者が減少していない。

国家試験の結果についても、目標を達成できていない。

改善の方策

入学前から高校ガイダンスやオープンキャンパスなどで職業理解を深められるよう工夫するとともに、入学生の変化に対応した個別性の高いきめ細やかなサポートを実施する。

学校関係者評価委員会からの意見

国家試験対策については、十分な対応をされていると感じる。働き方改革と多様性への対応など、大変なことが多いと思うが、今後も努力をお願いしたい。

ボランティアについても積極的に依頼したいと思うので、是非とも協力いただきたい。

小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

目標:就職率100%(就職希望者)

実績:18年連続100%

就職活動状況は、毎週行われる学科会議で確認している。

就職委員と3年生担当職員の連携を図ったが、早期から学生の動きを促すことが不十分であり、国家試験前までの全員内定には至らなかった。

今年度の反省を生かし、1・2年生には、自らの就職活動に意識を向ける方策として、すでに就職セミナーを実施している。また、次年度は、関連病院との連携を深めていく必要がある。

就職率等のデータは、毎年概況書に掲載され教職員へ配布されている。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

実習施設(市内4施設)及び関連病院の就職説明会を対面およびリモートで実施した。今後も継続する予定である。

求人案内は図書室に掲示し、自由に閲覧できるようにしている。

就職希望者は100%就職内定している。

マイナビによる年3回の就職ガイダンスを実施した。開校以来、就職率100%を達成している。

小項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

目標 100%

今年度実績 国家試験受験者数 59名(内訳:現役 59名)

国家試験合格者数 54名 国家試験合格率 91.5%

※昨年度実績、100% (全国平均;新卒者 94.9%、全体 87.4%)

今年度の取り組み状況

1.2年生はグループ校統一模試を作成し、半期毎に実施した。さらに全国模試(3科目模試)を年度末に実施した。

3年生は昨年度からグループ学習を止め、個人学習と2~3人での口頭試問、教員による分野セミナー、個別対応を活動の主とした。

模擬試験後には「模擬試験セミナー」として教員による全問題の解説を実施し、知識の定着や症例イメージを伝えるなど工夫した。

成績不良者への対応については、実習後の11月より、土曜・祝日登校を促し、教員による少人数対応を行った。成績不良者の選抜についても、学年主任、担任、役職者で最新の成績や学習への取り組み状況などを頻回に協議し、躊躇することなく見直しを行った。しかしながら、自分のペースでの学習を希望する学生が多くみられ、対応に苦慮することもあった。

【看護学科】

■自己評価: B ■学校関係者評価: 適正

■コメント

今年度実績:国家試験合格率 87.1%(昨年度 93.1%) 全国平均 87.8%(新卒 93.2%)

国家試験受験者 46名(内訳:現役 39名、既卒 7名)

国家試験合格者 29名(内訳:現役 27名、既卒 2名)

(3年生)模擬試験を実施し、成績低迷者にチューターをつけ、夏季及び冬季にセミナーを実施した。年間を通して模擬試験を計画し、実施してきた。学生の状況を見て個別に口頭試問など指導してきたが、今後も対策が必要である。

(2年生)受け持ち患者の疾患の理解をするために、関連した国家試験問題を解いて振り返りをしている。また、看護計画発表の際、病態生理を踏まえ、今後の予測を立て、理解したことを皆に説明する時間を設けている。実習終了後春休み前に必須問題に取り組む予定である。

(1年生)新カリキュラムからボーニー及びマインドマップ作成は授業科目として取り入れた。人の日常生活動作と関連させ、学習している。

今年度から産業医科大学で解剖見学を実施している。来年度は2年生も共に学ぶ機会を得られたため、2回解剖見学できるようになった。学年それぞれの目的を明確にして、効果的に学ばせていく。

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

退学者数 1年生退学者数:7名(退学率 13.4%)

2年生退学者数:2名(退学率 4.0%)

3年生退学者数:1名(退学率 1.7%)

全体退学者数:10名(退学率 6.2%) ※昨年度 5名(退学率 4.7%)

ストレート卒業率 ストレート卒業率 75.0% (昨年度卒業生 76.5%)

54名/72名(ストレート卒業生数/令和2年度入学者数)

支援状況

担任を中心として定期的な面談、気になる学生に関し声掛けや面談、保護者連絡、スクールカウンセリングの促しなどを行うとともに、教員間の情報共有をはかり、学科全体で支援を行った。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

退学者数: 1年生1名

2年生4名

3年生2名

全体退学者数7名

ストレート卒業率 83.7% (昨年度卒業生 81.1%)

36/43(ストレート卒業生数/令和2年度入学者数)

支援状況

担当を中心に定期的に面談を実施している。気になる学生へは声をかけ、面談を実施。

保護者への連絡を行い、必要時三者面談実施している。

メンタル不調の学生に対してはスクールカウンセラーを促し、専門医への受診の促しも実施した。学科会議の時に教員間で情報共有を図り、皆で支援している。

小項目 IV-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

ボランティア活動、地域清掃、地域や施設の祭り補助等の参加状況の把握を行っている。コロナ以前に比べるとボランティア依頼は減っているが、学校に届いた募集については学生へ提示ができています。

海峡マラソンのボランティアに63名が参加している。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

学生の活動実践を評価し、卒業時表彰している。

ボランティア活動(地域清掃)を実施した。

項目 V 学生支援

総括

各学年及びクラス担当制、副担当制を取り、定期的に学生との面接を実施している。成績や出席状況に合わせ、保護者とも連絡を取り合っている。年に1回保護者会を開催し、学校生活の状況や国家試験に向けての取り組みなど説明し、連携を図っている。

就職活動セミナー、マナー講座、履歴書作成指導、面接指導を実施するとともに、就職活動状況を随時把握し、情報の共有を図り指導に役立てている。就職説明会の開催、関連病院説明会等を活用して、就職活動を支援している。

国家試験前には学習の為に開校時間を延長し、教員の指導のもと個別学習を実施している。

課題

学力、コミュニケーション能力(対人関係)、家庭環境など、複雑な面を抱えている学生が増えてきており、今後も支援を強化していく必要がある。

改善の方策

学生・保護者と密な連携と図るとともに、早期からの学習支援、カウンセラーの促し、経済的支援の積極的案内などを実施していく。

学校関係者評価委員会からの意見

コロナの影響により、医療関係者は「きつい・危険・大変」というイメージがクローズアップされて報道されたように思う。SNSやWEBを活用した情報発信により努力を継続してください。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

【理学療法学科】

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

4月にお仕事サポートセンター職員による「履歴書の書き方」「面接での注意点」、青山商事職員による「スーツ着こなし講座」を実施した。

6月には合同就職説明会(令和健康科学大学)を対面で開催し、190施設(前年177施設)のご参加をいただいた。また、8月には本校にて対面での就職説明会を開催し、81施設(前年83施設)のご参加をいただいた。

担任、就職委員を中心に、学生の就職活動状況の把握に努め、学科内での情報共有が十分に図られた。また、面接指導や履歴書指導・添削もシステム化するなど、昨年から改善がなされた。しかしながら、学生の動きを促すことが不十分であり、内定状況は例年より低い数字と

なっている。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

4月に実習施設市内4施設と、関連病院の就職説明会を実施した。

4月実習前に就職ガイダンスを行い、就職先の決め方や、願書履歴書の書き方など指導している。実際に提出する際には内容を確認し、清書させ提出している。

今年度よりマイナビの説明を3回取り入れた

未履修科目を持っていると就職活動ができない為、できるだけ未履修科目をとらないよう1・2年次よりしっかり学習させる体制をとっていく。

今年度は就職活動に後れを取らず、単位修得できた。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

下記の通り体制を整備している。

担任制：定期面談の実施、必要に応じ随時面談実施

必要に応じ役職者を交えた面談実施

必要に応じ保護者面談実施

校内カウンセラーの配置し、学生の希望によりカウンセリング実施

学科での学生情報共有

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

担当を中心に面談する体制をとっている。必要時役職者と共に面談を実施している。

カウンセラーと連携をとっている。

必要時保護者との面談実施。

学科での学年報告時に報告し、情報及び指導について共有している。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

下記の通り保護者との連絡体制をとっている。

成績や生活面で気になる学生に関しては早期に保護者連絡を実施。

必要に応じて保護者面談の実施。

1年生、2年生の保護者会を対面と遠隔を組み合わせて実施。

緊急時の連絡先の把握ができています。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

再試験になった科目が発生した時や、態度その他気になるときに担当が中心となり、保護者と連絡をとっている。

各学年保護者会を実施した。保護者への一斉メールとしてスクリレを活用している。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

高校のキャリア教育の受け入れについて今年度は、下関国際高校より申し込みいただいた。

高校訪問、高校ガイダンスでの情報提供を実施した。ガイダンスについても、ほぼコロナ前と同様になりつつあり、昨年度よりも多く参加することができた。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

高校訪問やガイダンスに参加している。

看護師の仕事等職業教育の出前授業を実施した。

中学生の体験学習も取り入れている。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

学校(法人)独自の支援として以下の制度等を実施している

早期入学者に対する初年度授業料減免制度

家族入学割引制度

特待生減免制度

社会人入学金免除制度

災害被災に伴う学資支援制度(法人)

学生寮を完備

情報提供については、学生支援機構等の情報も含め、HP やパンフレットにて実施している。

また、学内に奨学金専用の掲示板を設置し随時掲示している。

理学療法学科については、地方自治体や病院・施設等からの奨学金の情報提供を調査し、掲示板にて告知している。

項目VI 教育環境

総括

施設・設備・備品・図書等については、設置基準ならびに関係法令に適合し、学習効果を向上させるためにプラスαで揃えている。

ICT教育についても今年度もタブレットで電子テキストやソフトを用い、ICTを進めている。

両学科が共に在ることを活かし、シミュレーション教育を取り入れ、IPEも実践した。学年ごとに目標を立て、実践した。今後も3年間を通しての学びを計画する予定である。

卒業生に対しても図書室等の利用を可能とし、卒後のスキルアップに活用できるようにしている。

防災訓練についても、計画を立てて防災避難訓練を年2回計画したが、火災時の避難のみならず、地震等の災害時の対応方法を学ぶ期間を設けている。

課題

開校して20年が経過するため、設備や機器の老朽化が目立つ。

改善の方策

設備・備品については、購入計画を立てて充実を図っていく。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

【理学療法学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

総括に記載の通りである。

【看護学科】

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

学習設備は必要に応じて点検・整備なされている。

学習に必要な設備投資も適切になされている。

コロナのために臨地実習に制限が出たが、早々に各領域担当が実習目的に合う内容の事例での実習を組み立てることができた。シミュレーション教育も教員も慣れてきた部分もあり、補完教材の患者状況を変更したり学生の状況に合わせて工夫して活用している。

教材購入計画に沿って、必要な教材をそろえている。定期的に施設設備の点検を実施し、修理補修しており、損発生時には早急に対処し、破損予防について皆で共有している。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

【理学療法学科】

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

臨床実習、対人関係演習等カリキュラム内の科目に関する実習施設は十分に確保されている。

カリキュラム改訂にともなう、デイケアや訪問リハ施設の実習地確保についても確保できている。

教育体制については、法人内のリハビリ関連5校と関連病院との連携が十分にとれ、本校においても教員が実習先を訪問し、指導者との調整や学生指導を実施している。

【看護学科】

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

指定規則にそって、必要な実習施設は確保できている。またその施設とも実習指導者会議を行い、情報交換し指導内容や評価に反映させている。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

総括に記載の通りである。

それ以外にも、消防設備等の整備及び保守点検は法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応している。

項目VII 学生の募集活動、広報活動

総括

学校パンフレットやホームページ、オープンキャンパス・学校説明会での情報提供以外に、定期的な高校訪問、高校教員向け学校説明会を年2回開催、学校ガイダンス等にも積極的に参加している。

課題

少子化、高校再編等が進む中、学生募集はさらに難しくなることが予測される。

改善の方策

高校から信頼をして学生を送っていただける学校、地域から認められる学校を目指して学校運営を行っていくとともに、学校の情報を正確に伝えていく努力を続けていく。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし。

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

総括の通りである。

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

パンフレット、HP、学校説明会、高校教諭向け学校説明会、オープンキャンパスでの情報提供を実施している。また、志願者からの問い合わせに対し個別対応を実施している。学校説明会やオープンキャンパス参加者の方々からは好評を得ている。

遠方の方や社会人の方には、ZOOMを利用しての説明にも対応した。

項目VIII 財務

総括

事業計画に基づき予算が計上され、適切な運営がなされている。財務は法人本部と各学校財務で確認を行う2重チェックで財務管理が行われている。また、決算及び予算については、理事会で検討・承認が行われ、会計監査の実施により、適正に行われている。また、事業計画については、学内の両学科で検討・調整を行い、予算計画を立てて運営している。

課題

少子化等の影響を可能な限り少なくし、安定した収入を確保する。

改善の方策

広報活動に力を入れるとともに、質の高い教育を確保する。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし。

小項目 VIII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

総括の通りである。

小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

総括の通りである。

小項目 VIII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

総括の通りである。

項目IX 法令等の遵守

総括

法令順守は、法人全体で取り組まれている。本校においても①学校基礎調査②専修学校各種学校評価③学校指定規則に基づく報告を毎年行い、法令を遵守している。

個人情報保護に関しては、法人全体で規定を設けており、教職員及び外部講師、学生が遵守すべき事項が定められている。臨床実習における学生の個人情報保護については、SNSの取り扱いを含めて指導を徹底している。

課題

本校では、これまで問題は起こっていないが、昨今、世間ではSNS等を通じての情報漏洩や不適切動画の投稿などが問題となっているため、今後も職員ならびに学生に対して教育を継続していく必要がある。

改善の方策

教職員・学生に対して、SNSならびに個人情報保護に関する教育を毎年実施していく。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし。

小項目 IX-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

学校法人でハラスメント委員会を設置し、各校から委員が選出されている。

ハラスメントマニュアルも策定している。

「専修学校実態調査票」を文科省へ毎年提出し、入学者数、卒業者数、教員数(名簿添付)等を報告している。

理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、教員数の確保、カリキュラムの作成、施設・教材等の整備を行っている。

小項目 IX-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

総括の通りである。

項目X 社会貢献・地域貢献

総括

職能団体や関連病院等に施設貸し出しを実施している。また、理学療法学科教員による高校の部活動支援にも取り組んでいる。学生へのボランティア活動についても、依頼があった募集については、掲示板に掲載し参加を促しているが、コロナ禍以降、依頼数が激減している。一部は再開しているものもあるため、引き続き協力体制を強化していく。

課題

社会貢献・地域貢献の機会が激減している。

改善の方策

待っているだけではなく、自ら積極的にアピールしていく。

教職員についても学生の模範となるべく、様々な依頼に対して積極的に参加する。

学校関係者評価委員会からの意見

是非とも地域ボランティアへは積極的に協力いただき多。

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

産学連携に関する方針・規定については、協定書に記載。

関連病院、職能団体や卒業生へも施設の貸し出しを行っている。

関連病院職員、卒業生へも図書の閲覧を許可している。

近隣中学校の職場体験受け入れや職業理解のための出張講座を実施している。

理学療法学科教員による、職能団体の理事や下関市の事業(介護認定審査会)へ協力はなされている。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

学業に支障のない範囲で、ボランティアへの積極的な参加を促している。

窓口として教員を配置し、情報収集および学生への伝達を行っている。

今年度、継続的なボランティア活動による社会貢献が認められ、下関市地域福祉推進会議(下関市社会福祉協議会)にて表彰を受けた。